

映画「逝き方」 (仮題)

協賛金ご協力をお願い (企業様向け)

人生の、最後の1%がしあわせならば
その人の人生はしあわせなものに変わる

<テーマ>

マザー・テレサは、日本を訪れてこう言いました。「この美しい国には、たくさんの貧しい人々がいます。彼らは食べ物ではなく、愛に飢えているのです。人間の微笑み、人間のふれあいを忘れた人がいます。これはとてもとても大きな貧困です。」

死とは、旅立つ人がこれまで生きてきたエネルギーの全てを、見送る人に渡し受け取る、荘厳な場所です。その瞬間は、その人の尊厳において、どこでどのように幕を閉じるか、決定する権利があると思うのです。残され受け継ぐ人たちは、その場に立ち会い、亡骸になった後でも良い、温もりを感じて欲しいと思うのです。寄り添うということは、その人を肯定する事。

団塊の世代が一気に75歳を迎える2025年問題が、目の前に来ています。今までのように目を背け続けられませんか。

この映画プロジェクトは、「尊厳のある死」と「いのちを繋ぐ重要性」を伝える為に製作します。

<内容>

主人公の男性・柴田が、看取り士として色々な方の命の尊厳に触れ、人生の最後をどう過ごすのかを問う作品です。また、逝く人だけでなく、残される者は、どうやって命の最後に寄り添うべきかを提言する映画です。

柴田自身の成功と挫折。企業人として成功を収めた柴田が、離婚等を経て、何の為に生きるのか悩み「本当に大切なものは目に見えないもの。」「心の中にあるもの。」という答えに導かれる。看取り士としての葛藤はもちろん、この仕事を受け入れて貰う為の努力も描きます。

一人でも多くの方の死を尊厳ある「逝き方」するために、自分の意志で「逝き方」を選ぶ事が出来るようにするため、柴田は自ら看取り士の育成を始める。

また、看取りとは、逝く人のだけの為ではなく、残される遺族にとっても魂と受け継ぐ場所である事を普及して行く。それは、柴田自身の両親の死を看取った経験が大きい。

そして、柴田は、現在でも、人の死に立ち会い、安心して逝く事が出来るように、また、その人生を、残る人が継承出来るように、看取り士として、人の死に立ち会っているのである。

本作品をより良い作品にするため、企業様向けご協賛金を募っております。

○協賛金 1000万円

※内容：別紙協賛金提案書に記載。

○協賛金 500万円

※内容：別紙協賛金提案書に記載。

○協賛金 300万円

※内容：別紙協賛金提案書に記載。

○協賛金 100万円

※内容：別紙協賛金提案書に記載。



主演
榎木孝明



企画・原案
柴田久美子

皆様のご支援・ご協力

何卒宜しくお願い申し上げます。

お振込み口座

ゆうちょ銀行から： 01700-3-169308

他の銀行から： ゆうちょ銀行
一七九店 当座 0169308

映画「看取り士」制作実行委員会

「逝き方(仮題)」事務局(日本看取り士会 内)

〒701-1145 岡山市北区横井上1609-2-107

TEL 086-728-5772 FAX 086-239-3992

Mail: staff@mitorishi.jp / ohashisao@gmail.com

函館研修所 輝砂 080-1866-7978 (広瀬)

東京研修所 事務局 090-2143-9974 (清水)

信州研修所 光 090-9666-0807 (原)

滋賀研修所 想和庵 090-2596-2209 (西河)

長崎研修所 事務局 090-1929-0789 (大橋)

大分研修所 事務局 080-5241-8215 (椰野)